

No. 46
31 Jan 2015

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう
Bird of Paradise

発行
NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日
平成 27 年 1 月 31 日

編集
NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部
〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-15
シティーマンション赤坂2階 日本ビジネスライン(株)内
Tel:03-5545-5100 Fax:03-3588-0776



協会メンバーのみなさま
平成 27 年



新年明けましておめでとうございます。

村田 吉隆 (当協会名誉会長)

日本・パプアニューギニア協会会員みなさまに、遅ればせではありますが、謹んで初春のご挨拶を申し上げます。本年がみなさまにとって幸せ多き年であり、日本とパプアニューギニア独立国の関係が、友好裡に一層発展することを期待致します。

さて、去年は安倍総理が中曽根総理以来、29年ぶりにパプアニューギニアを訪問され、パプアニューギニア産のLNGの対日輸出が始まったほか、投資協定が発効するなど両国関係にとって誠に意義深い年になりました。特に総理がオニール首相とともに発した共同宣言の内容は、経済、経済協力、外交・安全保障、地球環境変動、遺骨収集事業など実に包括的な内容に亘るものでした。今後は、この宣言を基礎に我が国がパプアニューギニア国民の民生向上のための協力を加速化させることが要請されるでしょう。この中で、私は3つのことを指摘したいと思います。①パプアニューギニア国民が、より高いレベルの職業に就くためには、教育の充実が不可欠であること ②地震・津波をはじめ災害の多いパプアニューギニアにおいて、国民生活を守るため、災害に対する知識の普及が大切であること ③パプアニューギニアが有する豊富な観光資源を活用し、外国からの旅行者を増加させるためには、自然環境の保護とともに、治安の改善が重要であることであります。教育水準の向上について私は、トンガのようにそろばん教育をパプアニューギニアの子供達にも普及させたいとの構想を持っています。災害については、かつて私が防災大臣だった頃、インドネシアの

アチェで大地震と大津波が発生しました。不幸なことに多くの犠牲者が出ました。その折、津波の恐ろしさを知らせるために、日本の“稲むらの火”という昔話を基に漫画を各国の言語で書いて配ったことがあります。繰り返される自然災害が、途上国の持続的な発展の阻害要因であることに鑑みて、災害に対する基礎知識の普及は、一層推進する必要があります。最後は、治安であります。治安が確保されることが、観光のみならず、外国投資の受け入れにも重要であることが、現地の指導者に充分認識されていないと思います。日本の交番制度の導入の他、警察官の基礎訓練に対する協力が必要ではないでしょうか。

今年は第7回の太平洋・島サミットが、5月22日、23日に福島県いわき市で開催されることになっています。日本と近く、太平洋戦争時代を通じて不幸な関係にあった国々の発展を支援し、友好な関係を進める大切な機会として欲しいと思います。

最近ポートモレスビーでは、近代的なショッピングモールの建設や国際空港の整備など、都市開発がめざましく進展している模様です。LNG資源の開発が現実のものとなり、やがてAPEC議長を務めるパプアニューギニアがその準備に取り組んでいる様子が見受けられるのです。私たち日本・パプアニューギニア協会は、太平洋諸島の中で最大の島国であり、若く発展の機運みなぎる同国との友好前進のために、今年も全力を尽くしたいと考えています。

パプアニューギニアの女性に健康な生活を届けます

—— NPO 法人 HANDS パプアニューギニア・プロジェクト紹介 ——



ヘルスセンターでインタビューする寺田さん

特定非営利活動法人HANDS 寺田 美和 (当協会会員)

HANDS は保健医療分野の国際協力をおこなう団体です。2000 年に設立されて以来、ブラジルやケニアでは 10 年以上活動を続けるほか、インドネシア・エジプト・スーダン・ホンジュラス・大洋州（フィジー・トンガ・バヌアツ）・フィリピン・ジブチで JICA 技術協力プロジェクトに携わってきました。そして 2014 年 7 月より、パプアニューギニア・エンガ州で新たなプロジェクトを立ち上げました。

私とパプアニューギニアとの縁は、大学時代のスタディツアーから始まります。すぐにその魅力にはまり、そのまま長期ボランティアを経て現地の看護大学に入学、卒後は州立病院の産科・小児科に勤務しました。そこまで私を引き留めたのは、大自然と人々の優しさもさることながら、この国の女性が置かれている現実を知ったことが関係しています。

国連開発計画 (UNDP・2013) によれば、パプアニューギニアのジェンダー不平等指数は 133 位 / 149 国、ジェンダー開発指数が 124 位 / 157 国と女性の立場が低い国です。

ボランティア中に出会う女性の多くが何らかの問題をかかえており、このような状況を変えたいという現地の人々の手助けをしたいと思い、日本に帰国し HANDS に入職して 2 年後、念願の活動開始に至りました。

活動内容は、ヘルスセンター（診療所）まで半日や 1 日以上かかるような地域住民のために、妊婦健診や予防接種、乳児健診などの保健医療サービスを届ける「モバイルクリニック（移動式診療）」の仕組みを定着させること、地域で保健ボランティアを育て保健教育などの活動を支援することです。事業パートナーはエンガ州保健局や診療所のスタッフ、そして現地日系企業などからもご協力をいただいています。まずは女性の身体的な健康づくりから始めますが、保健ボランティアの活動などを通じ女性が地域から頼られる存在になっていくなど、社会的にも女性が輝ける社会をめざしていきます。事業運営ではまだ若輩者ですので今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



山深いエンガ州の村落



モバイルクリニックシーン

志村ロッジのご紹介

～当協会ポートモレスビー支部も併設～

株式会社鈴木瓦店 代表取締役 志村 容一（当協会法人会員）

私とPNGとの交流はかれこれ12年目になろうとしております。昨今、日本側では在日大使館が三田国際ビルから目黒へと引っ越し、本国ではポートモレスビージャクソン国際空港が拡張中、赤かった通路や人々の口も影を潜めてきました。

11年前、私の所属するライオンズクラブがハイランドに小学校を建設させていただきました。その時の子供たちはみな卒業し、中には高校まで通う子供も多くおります。ライオンズクラブでは毎年、小学校、高校の2つの学校に文具、スポーツ用具などをプレゼントすることが年間行事となっております。

LNGで発展しているこの国において、進展していないものとして交通網が挙げられます。町と町が道路でありあまり繋がっていないため、空路での移動が必要な状況です。しかし、長距離移動が基本の空路は、近隣の町に行くだけでも一度ポートモレスビーを経由しなければならないという不便が残っております。

そのため余裕ある日程や乗り継ぎの手配が必要となり、その不便をすこしでも和らげるため、数年前からポートモレスビーに何か宿泊施設ができれば皆さんの為になるだろう、と云う一念で建設に着手いたしました。

設計図においては、私の本業が屋根店なので本瓦を使うことを第一条件として、第二にウォシュレット付

トイレを使用するよう自分で書き上げました。また、建物の水平と90°が心配になり、専門家を同行して基礎ポイントも出しました。建物自体は、シロアリ対策のため一階部分をR.Cとブロックで作成、二階は木造でありながら床がH鋼と云う日本にはあまりない様式で作りました。地元で販売されている木材は、製材所を営みたくなる程のもので、日本の杉や檜とは比べられないほど粗悪で堅く、釘を打つのが大変でした。

この建物で唯一自慢できるのが、先にご説明した、他にはない日本から輸入した12個のウォシュレットと日本瓦です。おそらくPNGでは初めてだと思います。

建設開始から一年余り、2014年11月ようやく350㎡あまりの総二階建ての宿泊施設が完成いたしました。40人程着席できる食堂で、ライオンズクラブの仲間たちや、松本日本国大使夫妻にも駆けつけていただき、オープンセレモニーをさせていただきました。

今年2月には停電時にはなくてはならない自家発電機がセットされ本格的に営業開始です。経済成長率20%と云う高成長のパプアニューギニア、旅行はもとよりビジネスマンにもこの宿泊施設をどしどし活用していただき、皆さまには更にPNGと友好を深めていただければ幸いです。志村ロッジのお問い合わせは、当協会事務局 03-5545-5100、info@jpng.or.jp まで。





ニューギニア航空が新体制となり約一年半、様々な改革、改善が行われております。

まずは、旅客サービス向上を念頭に、国際線運航に使用されているボーイング767、737の「機内全面リニューアル」が行われ、ビジネスクラスのお座席はフルフラット又は170度リクライニングシートを採用、機内食も改善し、快適な空間を提供できるようになりました。また、エコノミークラスにも個人モニター付き座席にアップグレードされ、多くの利用者の皆様にご好評を頂いております。

何よりも特筆したいのが、「定時運航率」の大幅な改善です。2012年は約55%だったものが、2013年には約70%に、そして昨年は85%と世界トップレベルにまで躍進しより快適にご利用頂けるようになりました。

そして、日本路線の最重要課題である日本-パプアニューギニア間「利便性」の向上、採算性の改善に多種多様な可能性を模索し、早期に改善できるよう取り組んでおりますが、「増便」を念頭に置いたこの二つの条件を満たす改善には、一朝一夕には解決しない課題が山積しており時間を要する様相です。

早期に実現可能な二便目を望む声が多く寄せられておりますが、エリア特性と日本の独特な市場性の為、ペイラインには程遠いのが実情です。採算性を考えれば、少なくとも毎週三便、適正機材による運航が必要条件になりますので、各関係者、機関、企業皆様のご尽力ご協力を賜りながら、一步一步課題を解決し、その実現に向けて邁進していく所存です。



事務局からのお知らせ

早いもので、1月も既に終わります。昨年は協会にとりましていろいろな出来事がありました。悲しい出来事は、理事の福島正光さんが亡くなられたこと、そして年末には、ポートモレスビー支部長の成田俊幸さんが

55歳で亡くなられたこと。協会を支えてくださった方々とお別れをすることは本当に辛いことでした。

喜ばしいことは、1年間きちんと「ごらくちょう」やメールマガジンを定期的に配信できたこと。そしてToktok会も開催でき、会員の相互理解が深まったこと、また法人

会員数が40社、個人会員が150名と多くの方に協会にご参画を頂いたことです。

当協会の役員、事務局は全てボランティアでの活動のため、なかなかタイムリーに皆さまのご要望にお応えできていないことも多々あると思いますが、今年も一年よろしくお願いを致します。事務局一同

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：40社 ◆ 個人会員：150名 (2015年1月31日現在)

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-15 シティーマンション赤坂2階 日本ビジネスライン(株)内
Tel: 03-5545-5100 Fax: 03-3588-0776 E-mail: info@jpng.or.jp URL: http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員5,000円 法人会員50,000円 学生1,000円 PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ